



題字 ㊸ 末吉太郎



ご挨拶

近畿支部長 柚本 アヤ子

薬窓会近畿支部の皆さまにはつつがなくお過ごしのこととお喜び申し上げます。また平素より、並々ならぬご協力とご指導を賜り、心より感謝申し上げます。

支部長を拝命いたしまして3年が過ぎましたが、会員の皆様のご期待に添えているかと自問する毎日でございます。

薬窓会近畿支部は、昨年も活発な活動が続きました。遠久朶ゴルフは菊井惣さん(54回卒)のお世話で2回開催されました。芍薬会は第6回を数え、毎回新しいメンバーも加わって楽しい一日を過ごしております。

山金会は今年の2月例会が、発足第50回となりました。折しも、関西遠久寮々生会の例会と重なり、大変盛会となりました。この場で、これまで40回以上出席された、奥村さん(41回卒)、榊原さん(41回卒)、川上さん(44回卒)、渡辺さん(59回卒)に精勤賞として記念品をお渡ししました。

例年5月に開催されます薬窓会近畿支部総会については、一人でも多く出席していただけるよう、知恵を絞っているところです。おかげ様で、70数名という多くの方々が毎年足を運んでくださっております。ただ、昨今、

内を送付できないという状況も起きております。皆様のお知恵をお借りしたいところです。

昨年の総会では、大学でのご研究の一端を紹介していただいた小松かつ子先生(66回)、薬学とはまったく違う分野で活躍なさっているお二人として、政治の場から鳥居文子先生(58回)、社会保険労務士の石黒聖啓先生(46回)にご講演をいただきました。

また過去には、若手のホープ葛西美恵先生からイギリスの薬剤師事情、薬剤師会の西洋寿先生から薬学生実習の受け入れ、赤尾先生から大学での薬学部6年生への取り組み、さらには企業での人生を語ってくださった菊井先生など、振り返ってみますと、なんと広い職域の方々からお話をいただいたことかと、あらためて母校の幅の広さ、厚さを誇りに思います。

このせっきくの機会をもっと多くの会員に知ってもらいたい、さらに研修の場とできないだろうかと考えていたのですが、このたび、富山薬窓会近畿支部は日本薬剤師研修センターの「研修会実施機関」として登録することが出来ました。今年はその第1回研修会となり、大学から酒井秀紀先生、企業からは元エーザイの村上学先生に来て頂いて、胃酸分泌にまつわるお話をしていただくことになっております。

薬剤師は、時代に即応した医療需要と社会的要請に对应、生涯にわたって自己研鑽に努めなければならないわけですが、この研修制度はあらゆる職域の薬剤師に対してその機会を支援することを目的としております。薬窓会近畿支部がその役割の一端を担うことが出来るということを喜びたいと思います。そしてこの試みが、会員の皆様に広く受け入れられ、永く続いていくことを心から願います。

今後ともご指導と、ご協力のほどよろしく願い申し上げます。

(58回卒)

胃酸分泌細胞のイオン輸送に関わる役者たち

富山大学大学院医学薬学研究部
薬物生理学研究室

⑦ 酒井 秀紀

体のなかで酸性度が一番強いのは、ご存知のとおり胃の中です。これは胃粘膜の胃酸分泌細胞から、食物を消化するために塩酸（HCl）が分泌されているからです。

塩酸（HCl）の「H⁺」を分泌しているのは胃プロトンポンプ（H⁺,K⁺-ATPase）とよばれるタンパク質です。胃プロトンポンプは、細胞膜を隔てた100万倍以上ものH⁺濃度勾配に逆らって、H⁺を胃の中へ分泌します。しかしHClの「Cl⁻」がどのようなタンパク質によって分泌されているのかについてはこれまで明らかにされていませんでした。

胃プロトンポンプの存在する膜とは反対側の膜（基底側膜）にはナトリウムポンプ（Na⁺,K⁺-ATPase）とよばれるタンパク質が存在しています。ナトリウムポンプは生命維持の根源となる膜電位を形成するポンプであり、細胞にとって絶対的に必要です。

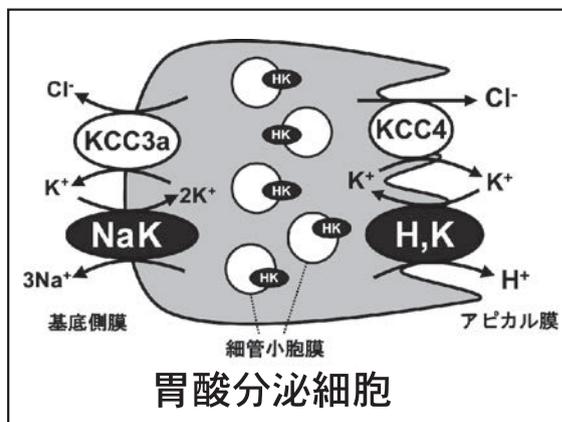
私たちは、K⁺-Cl⁻ 共輸送体（KCC）というタンパク質に着目して研究を行いました。KCCは、K⁺とCl⁻を細胞外に共輸送するタンパク質です。これまで、胃酸分泌細胞におけるKCCについては調べられていませんでした。

私たちはまず、KCC3aが胃酸分泌細胞の基底側膜に発現し、ナトリウムポンプとくっついていることを見出しました。そしてKCC3aは、ナトリウムポンプの働きを高めていることを明らかにしました。

また、KCC4が胃酸分泌細胞のアピカル膜に発現し、胃プロトンポンプとくっついていることを見出しました。胃プロトンポンプの働きはKCC4によって調節されており、HClのCl⁻は少なくともKCC4によって分泌されていることを突き止めました。

これらの知見は、プロトンポンプインヒビター（PPI）やH₂ブロッカーとは異なる作用機序をもつ新しい消化器疾患治療薬の開発につながる可能性があります。

※右上記参照



<胃酸分泌細胞におけるKCC3aとKCC4の発現と機能のモデル図>

胃酸分泌細胞の基底側膜には、KCC3a-ナトリウムポンプ(NaK)複合体が存在し、アピカル膜にはKCC4-胃プロトンポンプ(HK)複合体が存在します。それぞれ間接的、直接的に胃酸分泌機構に関与するものと考えられます。

「医薬品の開発-抗潰瘍薬セルベックス、パリエット-」

元エーザイ株式会社

⑧ 村上 学

私が和漢研の渡辺和夫教授の「生物試験部門」を修了し、エーザイに入社したのは昭和48年（1973）、当時消化器のエーザイと標榜していたものの消化器官用剤はメサフィリンなどで売り上げ構成としては僅か6%（売上高24億円）であったと記憶している。今では世界の売り上げで見ればパリエット、セルベックス等で25%（同1700億円）である。

富山大学のOBの皆様を支えられ、消化器一筋の36年、そして本年3月に大過なくエーザイ株式会社を定年退職することができそうである（原稿執筆は2月）。

思い返せば、36年間も消化器関連開発研究に携われたのは幸せであったし、ハードな生活（私生活は反省、未だに家族には頭が上らない）と試行錯誤の苦しい

毎日であったが、意外と楽しい思い出しか頭の中には残っていない。不思議なものである。

当日での講演では、医薬品開発のプロセスについて述べ、以下のセルベックスとパリエットの開発についてご紹介する予定である。

胃粘膜防御剤—セルベックス®

セルベックスの探索研究は、当時コエンザイムQ10（代謝性強心剤ノイキノン）の開発に社を賭けていた時であり、その中でプロダクトミックス（副産物の活用）の観点からコエンザイムQ10の側鎖イソプレノイドに抗潰瘍作用を見つけたのが研究の切っ掛けである。

セルベックスは、胃粘膜防御機構を強化して潰瘍の治療に貢献するする薬剤であり、胃の粘膜を守る粘液の合成と分泌を促進し、内因子のプロスタグランディン産生を高めるとともに胃粘膜血流を改善し潰瘍の修復を促す。最近、セルベックスに細胞自身の防御蛋白の一つであるヒートショック・プロテイン（HSP）を誘導する作用が見つかり、消炎鎮痛剤による胃粘膜傷害を抑制する新たな作用機序として注目されている。

プロトンポンプ阻害剤（PPI）—パリエット®

本プロジェクトは、1983年の筑波研究所開設後開始したプロジェクトであり、消化器関連薬剤開発の2番目のプロジェクトとなる。粘膜防御剤セルベックスを有するエーザイの次戦略として酸分泌抑制剤を開発するために立ち上げたのがPPIプロジェクトである。

開発コンセプトは、酸分泌の最終調節酵素であるプロトンポンプを特異的に阻害し、速く効く強い酸分泌抑制作用と優れた治癒効果を目指した。約1000化合物の中から、開発コンセプトを満足する化合物のRabeprazole；後のパリエットを見出した。パリエットについては、探索研究時には全く予測不可能であったCYP2C19遺伝多型における特徴的なPPIであることが判明した。即ち、PPIは一般にCYP2C19によって代謝を受けるが、パリエットはその代謝に本酵素の関与が相対的に少ないため、本酵素の遺伝多型による血中濃度のばらつきが少ないため、酸分泌抑制作用の人によるばらつきが少なく安定した作用を示し、かついろいろな薬剤との相互作用も少ないという特徴を有している。世界で3番手のPPIとしての臨床でのポジショニングも可能となった。現在では、パリエットは逆流性食道炎をはじめとした酸関連疾患の治療剤の第一選択薬に位置づけられてきている。

総会の講演に関連して

「医薬品の販売と開発— 抗潰瘍薬ランソプラゾールと私—」

⑥ 豊田 繁

私が村上さんと同様に和漢研の渡辺和夫教授の消化器の薬理「生物試験部門」の門をたたき、学士を卒業したのは1974年でした。奇遇なもので村上さんはエーザイでパリエットの創生に寄与し、小生は武田のランソプラゾール（商品名：タケロン[日本]；Prevacid[米国]）の開発と販売に寄与することができました。この薬はプロトンポンプ阻害剤（PPI）で、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、吻合部潰瘍、逆流性食道炎等の効能があり、世界の約90カ国で販売され、米国だけでも、販売額あるいは処方箋枚数から計算すると、年間1,980万から2,340万人の消化器病の患者さんに貢献しています。幸い1993年に「タケロンの創生と製品化」の海外開発の担当として社長表彰をいただくことができました。

この貢献は大きく、米国で1995年から仮に年間2,000億円平均で販売したとすると今までで2.6兆円の売り上げとなります。米国でのこの開発成功が無かりせば今の武田薬品はないといっても過言ではありません。以下、医薬品開発のプロセスについて述べ、開発の秘話と、最新の話題として2009年2月23日、米国新発売のKapindex（一般名 デクスランソプラゾール）をご紹介します。

ランソプラゾール：

ランソプラゾールは、1981年、十三の研究所でPPIの先行品であるストックホルムのヘッセル（現在のアストラゼネカ）の研究所で創生されたオメプラゾールを追撃するプロジェクトから生み出されました。会社の研究戦略として非常に短期間に、先行品に勝る動物データを持つこの薬にたどり着くことができました。医薬品の開発プロセス：（FDAに英国、ドイツ、フランスの臨床データを最適の組み合わせで提出した）

第1相試験：少数の健康な人での安全性確認。

第2相試験：用量を決める為の用量探索試験。

第3相試験：FDAはPlaceboとのDouble blind

control試験を基本的に要求します。またこの試験のことをPivotal studyと言い、普通の疾患における治験では2回の試験結果で再現性の保証が要求されます。日本の規制当局との違いは、FDAとPrimary End Pointで

でどのような結果を示せば承認されるのかを話し合うことが可能です。

ランソプラゾール開発の秘話：

1. 化合物の選定：1984年に合成/特許出願の苦勞：どこに発想があったのか！どうしてもベンゾイミダゾールの基本骨格を崩すと活性がなくなります。そこで側鎖に $-\text{CH}_2\text{CF}_3$ を導入したのが、活性向上のキーでした。
2. 毒性問題のFDAとの戦い：1991年-1995年：2度の2年に及ぶ癌原生試験の提出の涙。H₂ブロッカーのラニチジンを持つグラクソ社が、ラットの2年間癌原生試験でカルチノイドの所見がでるとネガティブキャンペーンで攻撃、当局への説明にアストラ社とともに苦難の戦いが継続しました。
3. 世界各国での発売時の当局との戦い：安全性において、英国、ドイツ、など各国の要求が異なっていました。どこかで承認申請の断念となると全世界の開発戦略に多大な影響を及ぼします。
4. 国際学会で初めての戦略的参画。1993年アテネでの当社初参加の国際的消化器学会でデビューさせました。

なぜ Prevacid は、米国で3,500億円/2000年も売れたか？(主な理由)：

1. 米国FDA開発の困難さを克服して7年かけて承認を取得した。(1988から1995年)
2. 米国TAP社における開発と販売部門の連携の成功。
3. 非常に選択性の高い薬剤故に、最適の用量を設定することができた。
4. 米国における消化器疾患の人種間病態頻度の違い。日本とは患者数が逆である。自覚症状のある胃食道逆流症 > 十二指腸潰瘍 > 胃潰瘍
5. 先発のオメプラゾールと取得効能の差別化に成功。Prevacid: 15 > オメプラゾール: 8 発売後7効能追加、3つの投与方法、同効能で臨床上の先発品との差別化ができ、2番手でも販売の優位性が主張できた。

ランソプラゾール(Prevacid)からデクスランソプラゾール(Kapidex)へ：

『2009年2月31日、抗潰瘍薬「Kapidex」の米国での販売許可をFDAから取得した。2009年11月に米国特許が切れる抗潰瘍薬「Prevacid」の後継品としての位

置付けである。』と報道されました。この Kapidex はランソプラゾールの光学異性体であり、Prevacid 同様PPI として働きます。Prevacid の米国での売上高は2008年4—9月で9億8,300万ドルだが、特許が切れれば安価な後発薬が発売され、売り上げ減が避けられません。そこで、アストラゼネカのNexium (オメプラゾールはラセミ体であるが Nexium はS体のみ) に習う戦略を取りました。Nexium は、米国医療用医薬品で2位の販売額を持ちますが(\$5.1billion/2008年)、特許上での新規化合物であり、かつマルチプル・ユニット型丸薬錠剤に改善したものです。また昨今の「FDAの安全性第一路線」に対しては、単に光学活性体であるから、毒性試験で最も困難なラット2年間癌原生試験は不要となります。この有利な戦略に習い開発された Kapidex は、薬剤が2段階で放出される独自技術の1日1回で有効なカプセル剤で、夜間の酸分泌も抑制できるというメリットを生かし、Nexium との比較試験で優位性を示すことができました。効能は「逆流性食道炎他の治療及びその維持療法、非びらん性胃食道逆流症」。20ヵ国で6,000人の患者を対象に臨床試験を行いました。2009年3月に米国シカゴで開催されるDDW(米国消化器病週間)では、この Nexium とのガチンコの戦いになると予測されます。

現在では、特許切れの2009年11月までに如何にPrevacid から Kapidex に切り替えていけるかが米国販売上のキーポイントであります。



末吉先輩を悼む

④ 奥村 隆一

末吉太郎先輩が平成20年9月22日死去され、9月24日通夜、9月25日日本葬が堺市の常通寺で営まれました。

私が昭和29年薬学部卒業の後、大阪市内に就職しましたとき、富山薬窓会大阪支部は会長⑨小幡敏治先輩(開局)、幹事長は末吉先輩、会計は⑩辻沢昌之助先輩(開局)でありました。

後日、末吉先輩より聞いた話を思い出しました。在学4年のとき、修学旅行で東京の三共株式会社、大阪の武田薬品工業株式会社の、十三の工場見学に参加した際、大阪では梅田の食堂で支部のご好意により、参加者全員が昼食をご馳走になったことを思い出しました。末吉先輩は、大阪府で薬務関係の部署での勤務が永く、ご多忙の中を幹事長としてご指導いただきました。

この間、特筆すべきはある年の支部の総会で参加者が100名を超え、大阪薬学クラブの会場が満杯になったことがありました。この参加人員の記録は、未だに破られていません。

その後、大阪支部の総会には連続して参加していただきました。一昨年は、お嬢さん同伴によるご出席でしたが、これが最後でありました。

大阪支部の会報「きんき遠久朶」の題字は、第1号より頂いており、また連続してエッセイを寄せていただいたことは、会員の皆様よくご存知のことと思います。最後に末吉先輩、永年に亘り富山薬窓会の運営のため、本当にお世話になり有難うございました。

法名 釋 浄順 享年 95才でした。

合 掌

森田 直賢 先生から

お花の便りが届きました！



森田直賢先生のご自宅の庭に咲いた

「カンザキアヤメ」です。

この根から新フラボン2種(カンザキフラボンIとカンザキフラボンII)を発見されました。また、森田先生は昨年「瑞宝中綬章」を受賞されました。

参考文献:
kanzakiflavone-1: Chem.Pharm.Bull. 24:815-817,1976.
kanzakiflavone-2: Chem.Pharm.Bull. 24:1609-1612,1976.

東京・大阪への修学旅行と 末吉先輩との初対面のころの思い出

④ 小西 友義

近畿支部の功労者である末吉先輩が他界された。ご年齢では天寿を全うされたわけだが、私どもにはやはり淋しい。先輩は新旧両世代の融和にご尽力され、今の近畿支部の礎を築かれた。ご高齢ながら支部の集いにはよく足をお運びくださっていた。ご冥福を祈る。

私ども41回生は今を去る56年前の昭和28年(1953)、国会があつた「バカヤロー解散」の年なのだが、4学年の5月に修学旅行をした。男子の服装は角帽と黒の詰襟姿だった。襟にはPのバッジが輝いていた。この字を着けているのは国立大学ではわが母校だけだった。まず東京での見学先は国立衛生試験所(世田谷区用賀、いまの医薬品食品衛生研究所)、赤煉瓦の3階建てだった東大の薬学科(当時はまだ医学部に所属)、警視庁の鑑識部門、恵比寿のキリンビール工場、川崎の東芝工場などで、宿泊は原宿の東郷神社の隣だった。引率は飯田先生で、まだ40歳代の後半だった。私どもの一行は東京人から見ればひと目でおのぼりさんだと分かるので、駅などで出会う人びとはそれなりに親切にしてくれたものだ。

それから大阪へは夜行列車に腰かけて移動した。当時は浜松までが電化区間で、ここで汽関車はSLと交替した。長旅の末にやがて東淀川駅にきて、次がいよいよ大阪だと知ったとき、たまげた。大阪駅の隣接駅だというのに(注:当時はまだ新大阪駅はない)、周囲一面がまだ田んぼだ。いったいどうなっているんだ。これが本当に日本第2の都会なのか。東京なら中心駅のなん十里手前から大都会の様相ではないか...。大阪駅頭で元気で出迎えてくださったのが30歳代の後半の末吉先輩だったわけだ。そのご私は年を経て関西に根を下し、先輩ともよくお会いするようになった。大阪での見学先は武田の十三工場、塩野義の杭瀬工場、それに今は京セラドームになっている大正橋の大阪瓦斯の工場、ここはガスタンクが今の球形ではなく巨大な「お茶筒」だった。阪急梅田駅は阪急百貨店の1階内にあり、京都・宝塚・神戸行きの各線はそれぞれホームが1本だけで、その各ホームの両側に線路があったから、乗場は合計6番線までであった。まことに小ぢんまりしたものだった。駅員も乗務員も服装は、詰襟服

だった。JR大阪駅前の一帯は大きな鬧市だった。宿泊は武田薬品の箕面寮だった。地下鉄は御堂筋線の梅田以南だけで、区間は天王寺か、せいぜい西田辺まで、それに大国町で分岐して新今宮に行っていた。すべて3両連結だった。今は10両である。梅田駅での乗り場は東京での整列・譲歩とは対照的で、我先の戦争だった。難波駅前の今は歌舞伎座の場所は当時は灰田外科病院で、ここは当時隆盛をきわめたウシの脳下垂体の移植で儲けたという噂だった。この移植で若返りという話だったが、真偽のほどは詳かではない。路上には当時ポイ捨て放題の吸い殻が豊富だったのでそれを拾い集め、ほぐし巻き直して安く売る商売が横行繁昌し、また市電やバスの停留所の付近では回数券をバラ売りにして1割稼ぐ光景も風物誌だった。これらはその後昭和45年(1970)の大阪万博の際に姿を消した。などなど、今は昔語りだが。思い出は尽きない。

最後に私事になるが、末吉先輩には私の拙著(注:英文法の)をご購入いただいた。あつくおん礼申し上げます。 合掌



昭和28年5月20日
三共品川工場にて



前から三列目、右の白衣の人から五人目の
やや横向きの男が私です。

晩秋の燃える愛宕山登山の記

④ 小西友義

11月中旬に、妻と愛宕山(924m)に登った。この山は京都の旧市内の北西隅にある。当日はまたとない好天に恵まれたので、たけなわの錦秋を堪能できた。台所の火の用心の神様とされている全国各地の愛宕社の総本山である。京都市内の山と言えば、この愛宕山と比叡山(848m)が代表格である。愛宕山は、山頂がぷっくりと恰もまんじゅうのように膨れているのが特徴で、このため市の中心部からは遠いが判別できる。昔から理想的にはお伊勢さんは年詣で、愛宕さんへは月詣でと言われてきたが、この愛宕山は誰にもおいそれと容易に登れる山とはいいがたい。私にとってはこの山の登山歴は10数回になる。登頂のコースはその都度変えている。比叡山よりも70数m高いことになり、これには昔から伝説がある。

その昔、比叡山と愛宕山が高さをめぐって喧嘩をした。「俺のほうが高いんだ」「いや、高いのは俺のほうが」というわけで折り合いがつかず、腹を立てた比叡山が愛宕山を殴ったので、頂上に前述の丸いたんこぶができ、この瘤の部分だけ愛宕山のほうが高くなっているのだそうだ。

バスで清瀧を下車していわゆる裏参道コースをとり、登る途中に空也上人(903-972)に因んだ空也の瀧に寄った。ここで私は脱衣し瀧壺に入ったが、瀧に打たれる時間は瞬間にとどめた。何しろ冷たいので危険を避けるためである。この先、コースはかなりの急峻が延々と続く。2人とも着実に歩を進めたが、妻のほうが私よりもかなり速い。途中で元気な、姿勢のよい老人に追いついた。どう見ても私よりも年上だが、矍鑠(かくしゃく)としている。年齢を尋ねて驚いた。大正10年生まれの87歳だという。この人の健康法は聞き出せなかったが、きっと平素それなりに合理的な暮しかたをなさっているのだろうと思ひ感銘を受けた次第だ。この87という数字でリンカーン大統領の演説(1863)の冒頭を思い出した。

今回このコースを選んだ理由は、前述の空也の瀧の他に月輪寺(つきのわでら)にも寄るためだった。ここは、明智光秀が決行前にここに詣でておみくじを引いたそうで、彼にゆかりのニホンシャクナゲが400年以上の歳月を経て大木に育っている。ここには親鸞

正人(1173-1262)の立像がある。この寺は空也正人と法然正人(1133-1212)にもゆかりがある。ここで私どもが飲んだ湧水の美味しさは忘れられない。この水は龍奇水と呼ばれ、空也正人が清瀧川の龍神から授かった霊水だと言われる。寺は、何しろ人里離れて険しい山の上にあり、檀家などとえあってもずいぶん遠いから経済的にはかなり苦しいだろう。私どもは僅かだが寄進をし、お札をいただいた。

さらに歩を進めて頂上の神社へ。頂上に近づくと大きな石材をふんだんに使った、立派な石段が長々と続く。これらの多量の石は、こんな高所にまでいったいどんな手段で運び上げたのだろうか。以前から疑問に思っているが、どうにも分からない。眺望のよい、樹間から京都市内を展望できる場所で昼食をとり、3時近くまで休んだ。ここは、京都市内でもかなり北方なので朝夕はとても冷え込むのだが、いまの昼下がりには太陽が元気で頑張ってくれている。3時となるともうあと2時間で真っ暗になる。

帰路は秋の夕日に映る山もみじの素晴らしさを心行くまで味わった。樹々はそのうち葉という衣装を脱いで陽光を地表にまで届かせる。そして落葉は虫や微生物の力で分解されて土に還り、また樹木を育てることになるのだろう。紅葉も春の桜と同様に、その見ごろは短いものだ。

水尾の柚子の里を経て4時には舗装道路に出られたのもう安心である。陽光の傾いた景観を楽しみながらJR保津峡駅に着いたら灯点し頃だった。

奈良の古寺に想う

④ 蛭谷 衛

奈良へは幾度か訪れていたが、カンボの宿に温泉があるので、療養を兼ねて奈良の地を踏んでいる。

奈良の都は、約90年(710-794)続いたが、1,300年前の古都に、何か心をひかれるものがある。

先日、元興寺という寺を参詣した。この寺はかなり古い寺で、法隆寺より20年前の飛鳥寺が前身で、平城京ができた時、今のところに移され、元興寺と改められたという。

古都には、日本人の心のふるさつがある。昔といっても高校時代であるが、歴史の先生が「温故知新」と

開口一番、大きな字で黒板に書き、これは「故きを温ねて新しきを知る」と読み、歴史を学ぶ所以がここにあると。

歴史の中には、多くの人の生きざまがあり、我々が生きる上の参考(教え)がたくさんある。歴史の重み、おもしろさ、なつかしさ、そして時代の流れを知り、これからの人生の未来に役立てる。

この元興寺は極楽坊とも呼び、世界遺産に指定されている。寺の中に、文化財研究所が設けられており、全国の各地の文化財の保存、修復、調査を手がけ、民間唯一の研究機関となっている。

元興寺を一巡し、古を想いながら寺を後にした。薬師寺、法隆寺、法華寺を回る。

寺を回り乍ら、時代背景に関心をもった。石器時代から国家統一の過程を調べてみた。政治の区分では、石器時代、飛鳥時代、奈良時代とつづくが、文化の区分では飛鳥文化、白鳳文化、天平文化とつづく。西暦600年から800年頃をいう。

飛鳥文化の代表は法隆寺であり、百済観音が有名である。薬師寺の薬師三尊像(国宝、白鳳文化)は、世界でも最高の仏像である。天平文化は東大寺大仏、古事記、日本書紀、万葉集などがある。

高校時代に日本史を机上で学んだが、今は足を使って歴史を学んでいる。温故はわかるが、知新はなかなか難しい。大化の改新、壬申の乱、大宝律令など学んだが、歴史は、常に乱があり、改新があり、律令の改正がある。

その歴史のくり返しの中に、我々が生きている。奈良の古寺を訪れ、歴史を学んでいるが、足を使う古都の散策は高齢者の楽しみであり、健康的である。これからも奈良の地を訪れ、寺社を見学し、歴史を楽しみたい。



トルコの思い出（祈り）

④ 川 上 四 朗

外はまだ暗い静寂のなかで熟睡中、突然異様な「ハイヤー♪～」と言う伸びの音が響き目を覚ます。眠気まなこで自宅の布団の中と錯覚し、次の瞬間「私は今、トルコにいる」と気づく。イスラムの礼拝の時刻を知らせる声「アザーン」で「いざ、祈りに就きたまえ、礼拝は眠りにまさる」と呼びかけているのだという。モスクの塔の上などから朗詠される。暗闇の中で遠くから浪々と響き渡る異様な美しい声で、何とも言えない奇妙な気分になって、爽やかさと新鮮さを感じた。夕方には町のあちこちから、夜は眠りにつく頃遠くからまた「アザーン」の音が聞えて異国情緒の感傷に浸る。イスラム教では夜明け前、正午、午後、日没後、夜の5回礼拝を行うことが決められている。

トルコの黒海沿岸では「こんなに日本人に親切な国があった」と驚いた。グルジア国境の町で「私は旅行中とても親切にしてもらった。それは何故でしょうか」と聞いてみた。「トルコ人が正直で親切なのは宗教から来ている。子供の時から正直と親切は強く教え込まれているから」。

移動中のバスの温度が35度に上がった。途中の川で5-6人の子供が水浴びをしている。車内は全く同じ調子で、お経のようなトルコの音楽が延々と続いていた。この暑さの中、私の隣に黒いマントのようなイスラムのベールを被り長衣の若い女性が座っていた。彼女に「暑くないですか」と訊ねてみた。「暑いですが。でも暑くないです。神と一緒にだから」。神社では神様に、お寺では仏様に手を合わせるが、人がやっているから真似ている程度の私に比べ「神と一緒にだから暑くない」という彼女の中にある神の存在に驚いた。

日本に帰る機内、私の座席の隣に座った若い女性は医学部の学生、乗務員が食事の準備「豚肉は入っていませんか」。食事が配られたとき、今度はかなりしつこく「豚肉は入っていませんね」。私が彼女に「誰も見ていないのだから良いではないですか」と言ったら「人が見ていなくても、神は見ています」。イスラム教で一般に良く知られているのは、豚肉を食べてはいけない、酒を飲むことの禁止だ。若い彼女に「神が見

ています」と言われて、私は少なからずショックを受けた。誰も見ていないから良いではないかの日本的発想は彼女には軽薄に思えたのだろうか。

タイルと陶器の生産地のキュタフィーの陶器店、濃紺、青、赤、白で描かれた独特のタイルが美しい。土産の品物を選んでいる最中、主人は時々手を洗って接客した。そのうちに「10分ほど待ってくれないか」と言って出て行った。後で聞いたら手を清めてお祈りに行って来たのだと。イスラムでは仕事より祈りが大事だという。

イスタンブールの旧市街、観光の中心に壮大なブルーモスクがある。内部は青を主体とした2万枚以上のイズニック・タイルで装飾され、広大な広間一面に絨毯が敷かれステンドグラスの天井窓から淡い光が差し込み、見る人を「涙が出るほど感激した」と言わせる。そこで数百人の男性が一斉に頭を垂れ、腰を屈め、跪き、顔を地面に付けて尻を上げ一心に祈る。それが何回も繰り返される。厳粛で異様な雰囲気にも圧倒された。

日本では「入学試験が必ず通りますように」、「一億円の宝くじが当たりますように」と祈ることがある。ところが定員100名のところに500名がいくら必死に祈っても400名は必ず落ちる。一本しか当たらない宝くじはいくら大勢が心をこめて熱心に祈っても一人しか当たらない。つまり、神の力をもってしてもどうしようもないことが分かりきっている。神様は「俺にも出来ないことを頼むのは止めてくれ」と言うだろう。首尾よく合格できたときに感謝の祈りをする人は少ない。うまく行って当たり前、うまくいかなければ「神も仏もあるものか」と悪態をつく。

イスラムの祈りは、日本人がやる祈りとは違ったものであることを知った。「神へ感謝する」だけであるということだ。望みがかないますように、神に何とかしてくれるよう頼み込む、そういう願い事をいれてはいけない。

次いで、個人個人が自分の望みを神に呼びかけるものがあって、両手の掌を上差し出し、空から降ってくるものを受け止めるようなポーズは「天からの祝福を受け止める」ことを意味しているという。「神の加護を求める祈り」、「神の許しを請う祈り」で祈禱文

関西遠久朶寮々生会

④ 小野 壽彦

を収録した本もあるそうだ。なるほどこのようなお祈りなら、神もかなえてくれるだろう。「神も仏もあるものか」と悪態をつくこともない。

法隆寺が建てられた7世紀のはじめ、アラビア半島の一角でおこったイスラム教は1400年をへて地球上の5分の1近くの人々に強い影響を与えている。唯一の神アッラーへの絶対服従、偶像崇拜禁止、専門の僧侶をもたない、神の前では全ての人間は平等というイスラム教のごく一端をトルコで体験した。欧米やアジアの国に行くと、どこの街にもマクドナルドがあったり、服装も建物も日本とあまり変わらない。トルコはイスラムの国、日本とは宗教が違う。イスラム独特の礼拝堂があり、ビザンチン時代とオスマン時代の城壁、紀元前数千年前の遺跡や遺物がある。日本とは全く異なる雰囲気を受けて異国であることを実感する。その上、人々が親切なので、また行きたくなる“トルコ”です。



関東で開催している遠久朶寮OB会を関西でも開催しよう、との話が持ち上がりました。第44回の川上四朗さんを中心に、第45回の本多芳明さんや私達がお世話をし、第1回遠久朶寮OB会が平成14年6月27日に北浜倶楽部で開催されました。

富山大学遠久朶寮寮生名簿から、関西在住の39回から最後の寮生56回までの49名に案内状を差し上げました。そして、第40回の人見五郎さんを初めとして17名が集まって、賑やかに始まりました。卒業後数十年を経ており、青春時代の面影はありませんが、顔を合わせれば懐かしき遠久朶寮時代にタイムトンネルして、食べながら、飲みながら、大いに語り合い、時の経つのを忘れていました。

今にも倒れそうなオンボロ遠久朶寮、炭火を熾して作ったうどんの美味しかったこと、沢庵とみそ汁と茶碗一杯の朝飯、二級酒で盛り上がった岩瀬浜の裸のファイアーストーム、寮祭のダンスパーティ、別館で覚えた千点10円のマーじゃん、徹夜の期末試験のヤマカケ一夜漬、授業をサボって総曲輪で売りまくった寮主催のダンスパーティ券、そして買ったテレビと洗濯機等など・・・。

毎年開催していた関西遠久朶寮々生会も、会場の手配、案内など、世話人の負担が大きく、一時中断していました。しかし、再開を希望する人達が多く、一昨年から年1回、会場手配の必要のない山金会を活用して、関西遠久朶寮々生会を開催するようになりました。

寮生も寄る年波には勝てず、アルツハイマー病の発症が心配な年代になっています。発症に関係するペータ蛋白を増やさない方法の1つが、みんなで集まって楽しく会話をすることです。

このような楽しい会は寮生にとって、何にも代えがたい貴重な会であり、今年から2,8(ニッパチ)月の年2回開催することになりました。第7回関西遠久朶寮々生会は2月20日に開催され、19名が参加しました。山金会に参加の富山葉窓会近畿支部の同寮生も集い、楽しい時間を過ごしました。

関西遠久朶寮々生会は48回飯田、野田、56回濱島の各氏と私が体力・気力の続く限り、お世話をし開催したいと思っています。さらに、関東遠久朶寮々生会と

の合同開催の案も出ており、何とか実現したいと思っています。

次回、第8回関西遠久朶寮々生会は8月21日（金曜日）午後5時～8時、新阪急ホテル地下2階、パブラウンジ「ビーツ」(Beet's)、会費3,000円で開催します。

これまで参加されなかった寮生も集まって、思い出多き遠久朶寮時代に戻って、気兼ねなく大笑いしながら、大きな声で話しましょう！！

最後に会場のビーツでは歌いたくても歌えない、コンパでは必ず歌った寮歌の1番で締めくくりにします。

心に秘める憂愁と 知慧の眼交わさんと
越路の吹雪潮分け 遠久朶の浜に集い寄る
まどいの宴血の燃える ああ友よ来て頼寄さん

作詞：諏訪平馬（第37回）、作曲：石黒啄二（第37回）



遠久朶寮：湊秀夫氏所蔵（無断掲載）

日光・月光菩薩

㊦ 渡辺卓司

『ゆく秋の 大和の国の薬師寺の 塔の上なる ひとひらの雲』佐々木 信綱

秋になると奈良に行きたくなる。私は飛鳥の里やそのまわりの棚田が好きで、曼珠沙華の咲き乱れる実りの秋を見つけると、なんだか心豊かになったようになる。秋だけでなく正月にも、菜の花の春にも、何度か飛鳥や長谷寺に足を運んだ。もちろん法隆寺の百済観音も、薬師寺東塔も好きだ。この和歌を詠んだ信綱の訪れた頃、薬師寺はさびれていて東塔と仮講堂しかなかった。私も東塔しか見るものなかった、ひなびた感じの薬師寺をしっかりと覚えている。その後、故高田好胤薬師寺館長の努力により金堂、西塔、中門、回廊、講堂などが次々と再建された。この金堂の中に本尊である薬師瑠璃光如来、そして、向かって右に日光菩薩、左に月光菩薩の薬師三尊像が配されている。

昨年、薬窓会首都圏支部総会に参加するため東京に行くことになった。私にとっては大変幸運なことに、総会開催日の翌日を最終日とし、東京国立博物館で[国宝薬師寺展]が開かれていた。何の躊躇もなく、喜んで前日から東京に行った。連絡を取り、59回卒の井本直樹君と飲んだ。その上、井本君のところに泊ってもらった。9時前に上野に着くと公園口に向かった。改札を出る前から渋滞していた。私はいやな予感を感じつつ、改札を出ると人の流れに乗って博物館前まで来た。やはり、そこにはヒトの列が狭い歩道を埋めていた。やがて開館すると薬師寺展の開かれる平成館の前には人のつづら折りが出来ていて、人が右向き左向きと4列で並んでいた。日射病の介護用と思えるテントと給水タンクが数台用意されていて、係の人が時折みんなにその利用を呼びかけていた。やっと入場できたのは11時を過ぎてからであった。

まず出会ったのは聖観世音菩薩だった。薬師寺で見たという記憶は私にはなかった。初めて出会ったように思えた。近づくとつれ、その気高さと端麗な美しさに圧倒された。左の肩から右の腰に流れる天衣(てんえ)、右の肩からおなかの上を経てU字の形で肩まで上げた左手の肘をぬけ、足下まで下がっている細長い帯のような天衣、もう一方の帯のような天衣は反対側

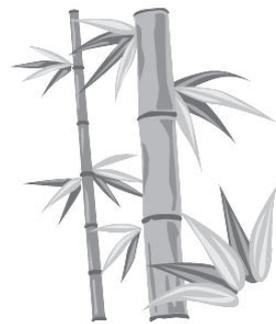
からカーブを描き、下げた右手の手首の上を経てやはり足下まで下がっている。さらに、両足の上にも透けるような衣があり、シンメトリカルに幾重にも襞の流れがある。これら全ての衣が、リズムカルに、静かな時の流れと、音なき音を聞くという思索の場を提供しているようにも思える。光背は無く、後ろ姿も見る事がでた。背中にも、シンメトリカルな、流れるような天衣の襞があった。半眼のお顔は、心を研ぎ澄まし心の目で形無きものをとらえると言われる『観』を感じさせる気高さがあった。

日光菩薩と月光(がっこう)菩薩はならんでいた。やはり光背はない。進路に沿って進むと少し高い位置から二人の菩薩と対面する。なだらかな傾斜を降りると、まず日光菩薩にいたる。明るく暖かいお顔は確かに日光菩薩の由縁のところかもしれない。月光菩薩の方に進み拝顔すると、そのお顔からは少し愁いを含んだ思慮の姿を感じる。私は二人の菩薩が等しく見える所に立ってしばらく交互に見つめていた。お顔だけではない、雰囲気も違うのに気がついた。日光菩薩には力強さがある。月光菩薩には繊細さと優しさがある。なぜそういうイメージを受けるのだろうか。薬師寺では、ここにはおられないが薬師如来を中心に、日光・月光菩薩は少し腰をひねらせ、左右対称な立ち居となっている。日光は右手を挙げ月光は左手を挙げている。よく見ると月光の方が水平より心持ち高く挙げている。下げた右手もわずかに曲がっている。一方日光の方は左手をすっとおろし、出した右手も水平に近い。総じて日光は直線的で明快さと力強さを感じる。はたと気づいた。U字の細長い帯のような天衣の下の両足を覆う衣の襞の違いがある。日光は4本の等間隔、月光は計5本だが上の2本の幅が狭い。天衣の襞は日光がほぼシンメトリーなのに比べ、月光は微妙にバランスを崩してある。遊び心がある。お顔だけでなく、こんな細かい所に気を配っているからこそ、『愁いを含んだ思慮』というイメージを受けるのかと思ってしまった。私は日光菩薩の方に戻り、後ろ姿を見た。人間味を感じる肩から腰の線だった。天衣の襞は左右と上から下にシンメトリーに4本あった。月光菩薩の後ろ姿は女性的だ。天衣の襞は5本、微妙にバランスを崩してある。予想はしていたが、後ろ姿にまで心を配り、ここまで完璧にデザインした白鳳時代の仏師に最大の賛美を送りたい。

平成館を出ると若葉が目飛び込んできた。ベンチで憩う人の中に異国の人もいた。みんな、のんびりとおしゃべりを楽しんでいた。流れてくる風が心地よかった。今日は貴重な体験をしたと思った。今までは遠くから、暗い中で仏像に向かっていたが、今日は違った。近くから色々なことを見、考えることができた。『仏足石』の展示もあった。薬師寺に仏足石があった事は忘れていた。私は上野駅に向かいながら考えた。仏足石の中央には車輪のような千輻輪の模様がある。ブツダの象徴は、初めは仏像ではなかった。この車輪のような模様がブツダそのものであった。紀元前、マケドニアのアレキサンダー大王がインドまで攻めてきた。この事をきっかけにギリシャ彫刻の影響を受け、仏像ができた。『古典の笑み』といわれる古代ギリシヤアルカイックスマイルはインド、中国を経て日本に伝来した。広隆寺弥勒菩薩像の半跏思惟像はその代表である。この像は新羅から伝来したものとする説もあったが、日本で造像された可能性が高いことがわかってきた。果たして、日光・月光菩薩を作った白鳳時代の仏師はどんな人だったのだろうか？あそこまで完璧なデザインができるのは異国の人ののだろうか？帰化人なのか？

いやそこまでの技術を習得した、れっきとした日本人かもしれない。

気がつくと上野駅の公園口が見えてきた。



第6回芍薬会報告



平成20年10月26日(日曜日)前夜からの小雨が残っている空模様ながら、51回卒から69回卒まで、女性19名が北浜の駅に集合しました。

今回は、大阪道修町くすりの資料館見学と天満天神繁昌亭での落語を聴く会です。

まずはくすりの道修町資料館の見学です。

「神農さん」で親しまれている少彦名神社(すくなひこなじんじゃ)の宮司さま(41回奥村さんのご紹介です)の説明を受けながら資料館を見学し、VTRを見せていただきました。

道修町の成り立ちから、今では大企業となっている武田、藤沢、塩野義などくすり問屋の載っている古い地図や、江戸時代のくすりの流通のしくみを見て、いまさらながら納得したり、びっくりしたり。

ランチタイムは例年のごとくおしゃべりに花が咲き、時を忘れるほどおいしく楽しく過ごしました。急ぎ天満天神繁昌亭へと向かいます。

最後、天満天神繁昌亭では、駆け出しの落語家、美人の浪曲師からベテランの噺家までいろいろな演目で笑い転げ、これまた楽しい数時間でした。

今回の幹事を引き受けてくださったのは、68回柏谷純子さん。

お世話有難うございました。

芍薬会は、一人ではなかなか行かないところや行けないところを探して、毎年1回開催しています。

妙齢の女性、そうでない女性もぜひご参加ください。皆さんからの楽しい企画をお待ちしています。



吉田 重子 (57回)

2008年度 富山大学 近畿薬窓会ゴルフ大会報告



2008年9月5日 箕面ゴルフ倶楽部にて

<秋季大会>

2008年9月5日(金曜日) 箕面ゴルフ倶楽部 参加者11名

優勝: 武中正衛 (NET: 69.4) 準優勝: 小野 壽彦 (NET: 71.0)

3位: 山岡 薫 (NET: 71.6) 5位: 本多 芳明 (NET: 76.4)

7位: 菊井 惣 (NET: 77.6) BB: 伊藤 誉志男 (NET: 84.8)

BG: 小野 壽彦 (41-44=85) 大波: 伊藤 誉志男 小波: 市川 智博

LD: 武中 正衛、小野 壽彦 NP: 益田 拓郎、山岡 薫

*なお上記以外の参加者の方々は、溝口 正、飯田 晋一郎、島 司の皆さんでした。次回も多数のご参加を期待しております。



2009年4月3日 箕面ゴルフ倶楽部にて

<春季大会>

2009年4月3日(金曜日) 箕面ゴルフ倶楽部 参加者11名

優勝: 市川 智博 (NET: 72.6) 準優勝: 菊井 惣 (NET: 74.6)

3位: 益田 拓郎 (NET: 75.2) 5位: 武中 正衛 (NET: 75.6)

7位: 本多 芳明 (NET: 76.8) BB: 島 司 (NET: 78.6)

BG: 武中 正衛 (40-44=84) 大波: 伊藤 誉志男 小波: 市川 智博

LD: 石黒 聖啓、小野 壽彦 NP: 小野 壽彦

*残念ながら今回入賞できなかった方々は、溝口 正、飯田 晋一郎の皆さんでした。次回の入賞を祈願しております。

2009年度、次回の秋季近畿薬窓会ゴルフ大会は9月4日(金曜日)に開催いたしますので、スケジュール取り直しをお願いいたします。

(開催コース: 箕面ゴルフクラブ) たくさんの方の参加をお待ちしております。改めてご案内方募集をいたしますので、その節には宜しくお願いいたします。(近畿薬窓会ゴルフ大会運営サポーター一同)

★ 事務局より★

110年以上の歴史と伝統ある母学出身の皆様、富山薬窓会近畿支部事務局では支部の運営や行事について、皆様のご意見を広く承りたいと思っています。毎月第三金曜日に開催しています例会“山金会”、あるいはこの“きんぎ遠久架”の紙面をご利用下さい。

また、Eメール等で、

- ・ 支部長 柚本：aya-yumoto@gaia.eonet.ne.jp、
- ・ 幹事長 渡辺：watanabe@peptide.co.jp、
- ・ 事務局長 原：hidetoshi.hara@shionogi.co.jp、にご連絡下さい。特に近畿支部会員のEメールアドレス一覧表を作成中ですので、皆様のアドレスを事務局までお知らせ下さい。

相互の連絡に広く利用したいと思っています。

年会費(1,000円募金)について：

会報誌きんぎ遠久架の発行と、総会の案内などの諸運営の一助に当てるため、毎年1,000円の年会費を募集しています。このため、総会案内と同時に振替用紙を同封しています。年会費を納めていただいた方には会報誌を送付させていただきます。近畿支部の活動と運営にご理解をいただき、ご協力をお願いいたします。なお、総会出席者の会費の中には年会費を含ませていただいています。

近畿支部会になって8年、大所帯になり、また事業の立ち上げもあり経費も増大しています。先輩がたの篤志による基金の利息は昨今では微々たるものとなっております。基金の取り崩しで補っている次第です。事情をよろしくご賢察下さい。

芍薬会へのお誘い

女性会員の皆様

芍薬会は今年で7回目を迎えます。昨年は10月26日(日)、くすりの道修町資料館の見学と天満天神繁盛亭での落語を聴く会を開催しました。

第7回の今年は、奈良で『森野の薬草園と大願寺の薬膳』の予定です。費用は3,000円程度ですので、どうぞ女性会員の皆様、たくさんのご参加をお待ちしております。

・ 連絡先：57回 吉田 重子
TEL 0797-86-7080



※詳細が決まり次第、改めてご案内いたします。

平成20年度 支部活動

■近畿支部総会 平成20年 5月18日
於：大阪弥生会館

■芍薬会(女性会員サークル) 平成20年10月26日
くすりの道修町資料館の見学と天満天神繁盛亭での落語を聴く会を開催

■山金会(毎月第三金曜日)

於：新阪急ホテル Beets

平成20年	5月16日 / 6月20日
	7月18日 / 8月15日
	9月19日 / 10月17日
	11月21日 / 12月19日
平成21年	1月16日 / 2月20日
	3月20日 / 4月17日

*山金会は、2月20日で記念すべき50回を迎えました。
今後ともよろしく願っています。

富山薬窓会近畿支部

収支決算報告書

2008.4.1～2009.3.31

〈収入の部〉	(単位：円)
支部総会(72名)	470,000
年会費(75名)	90,000
利息(住友信託)	1,421
基金より繰り入れ	723,618
寄付2件	20,000
前年度より繰り越し	24,449
計	1,329,488

〈支出の部〉	
支部総会費	554,309
きんぎ遠久架発刊費	266,760
年会費手数料	10,740
芍薬会助成金	30,000
出張費	30,000
山金会(12回)	419,900
慶弔費	10,500
次年度に繰り越し	7,279
計	1,329,488

近畿支部基金	2009.3.31
昭和39年住友信託	1,020,000
昭和56年住友信託	1,500,000
平成2年北陸銀行(利息繰り入れ)	5,355,709

平成20年度 年会費協力者

23	末吉太郎	46	三浦健	56	荻野嘉丈	66	正本和久
24	池内勝美	46	森野行雄	56	加藤研治	67	大江善則
25	榊原昭男	47	今村俊雄	57	井上峰子	67	佐々木秀樹
26	斎藤徳男	47	久保一義	57	小野坂敏見	68	柏谷純子
33	中野茂	47	武中梅子	57	阪上優子	68	中田孝紀
34	前田美千雄	47	中村信一	57	西洋寿	68	服部竜八
35	西村一男	47	濱田精一	57	吉田重子	68	正本留美子
36	西尾正英	47	東聡	58	上田泰生	69	大江桂子
36	堀端栄之助	47	平尾元紀	58	掛見佳代子	69	横田文子
36	前田傳三	47	平尾宏子	58	勝山巖	70	田中清裕
38	野田泰男	48	石原悦子	58	田中滋雄	71	西尾孝夫
39	大橋保	48	小野壽彦	58	仲井慶次	71	熊田晶夫
39	清水栄夫	48	菅野紘	58	西尾忠重	72	鶴澤豊
39	沼田美智子	48	野田和夫	58	皆川彰	72	能登谷浩平
39	斉藤論一	48	飯田晋一郎	58	湯朝安代	75	荒井実
40	人見五郎	48	中嶋啓	58	柚本アヤ子	75	横田克行
40	森下恭男	48	今村昌弘	58	米田行徳	76	西村誠人
41	奥村隆一	49	山岡董	58	武久正子	76	安居輝
41	曾根良治	49	山本昌利	58	鳥居文子	85	八尾篤
41	小西友義	49	渡辺克彦	59	田代眞一		
41	榊原章光	50	小山恵子	59	戸田静男		
41	仲野永二	51	坂本清則	59	村上牧子		
42	相方博文章	51	永岡道代	59	渡辺卓司		
42	百瀬雄章	51	東哲郎	59	太木恵美		
43	加藤秀夫	51	益田拓郎	59	原秀敏		
43	菊地克信	51	横山みどり	59	福地滋夫		
43	長谷純子	51	渡邊和子	60	稲崎恵美子		
43	黒田富雄	51	肥田正孝	60	岡野美臣		
43	蛭谷衛	52	加藤征子	60	小林正史		
44	川上四朗	52	中川久夫	60	竹村眞知子		
44	室谷弘	52	一柳博康	60	中西憲幸		
44	山崎昭平	53	井上節子	60	宮本金夫		
44	山住拓一	53	檜葉敏子	60	姜仁順		
44	川内潔	53	菊井昂	61	豊田繁		
45	中林靖	53	森下美枝子	61	菊地武夫		
45	本多芳明	54	有田齐	62	津田裕子		
45	溝口正	54	有田寿子	63	釜谷美恵子		
45	吉屋久雄	54	菊井惣	63	豊田由紀		
45	垣見怜子	54	水野憲一	63	横田弘		
46	荒木栄一	55	亀井幸子	63	川村喜三郎		
46	石黒聖啓	55	持家照子	65	穴見悦子		
46	島多史郎	56	木村正昭	66	岡村俊男		
46	本田進	56	濱島健二	66	益川雅子		

富山薬窓会近畿支部

役員

(2006年 6月1日承認)

支 部 長	(58) 柚本アヤ子		
副 支 部 長	(61) 豊田 繁	(59) 村上牧子	
幹 事 長	(59) 渡辺卓司		
事 務 局 長	(59) 原 秀敏		
事 務 局	(41) 奥村隆一	(72) 鶴澤 豊	
山 金 会	(75) 荒井 実	(60) 宮本金夫	(58) 上田泰生
おくだゴルフ	(54) 菊井 惣	(57) 西 洋寿	
芍 薬 会	(57) 吉田重子		
幹 事	(56) 吉川和憲	(57) 小野坂敏見	(57) 阪上優子
	(60) 小林正史	(60) 竹村真知子	(61) 菊地武夫
	(63) 釜谷美恵子	(63) 豊田由紀	
評 議 員	(40) 人見五郎	(41) 仲野永二	(43) 蛭谷 衛
	(44) 山崎昭平	(44) 山住拓一	(45) 溝口 正
	(45) 本多芳明	(46) 森野行雄	(46) 石黒聖啓
	(47) 中村信一	(48) 中嶋 啓	(48) 小野壽彦
	(52) 桂 恵美子	(52) 一柳博康	(52) 中川久夫
	(53) 菊井 昂	(56) 濱島健二	(56) 荻野嘉丈
	(58) 勝山 巖		
顧 問	(36) 堀端栄之助	(48) 飯田晋一郎	

() 内 卒業回数

